

千葉県水道局環境保全計画実施状況一覧表

基本方針	施策の方向	取組事項	平成22年度までの目標	平成22年度の計画	平成22年度の実績、 取り組み状況	基準年の値 (水道局の値) ※1	評価	5年間の総括			
1	(3)	事業活動における環境負荷の低減 廃棄物の削減(再資源化)	①浄水場発生土の有効利用の促進	平成22年度で浄水場発生土の再資源化率98%以上を維持する。	(単年度の計画なし)	100%	—	a	目標を達成した。 (5年間平均100%)		
			②鉛給水管の引き抜き工法(※7)の採用	鉛給水管の布設替えに当たり、5カ年間で2,710本の単独更新工事を鉛給水管引き抜き工法により実施する。	鉛給水管更新工事28,644本のうち2%について引き抜き工法により実施する。	引き抜き工法により50本の更新を実施した	—	c	計画本数2,710本に対し、実績は401本と目標は達成できなかった。その理由は、施行箇所が引き抜き工法採用基準(他企業埋設管との遠隔距離)に合致しないものが多数あったためである。今後については、現場条件等合致する箇所について実施する。		
			③建設副産物のリサイクルの推進	○アスファルト・コンクリート塊の再資源化率及びコンクリート塊の再資源化率を平成22年度までに100%とする。	(単年度の計画なし)	98.5%	—	b	目標を概ね達成した。 (5年間平均 99.6%)		
				○建設発生木材の再資源化・縮減率を95%以上に維持する。	(単年度の計画なし)	75.7%	—	b	目標を概ね達成した。 (5年間平均 92.0%)		
				○建設汚泥の再資源化・縮減率を75%以上に維持する。	(単年度の計画なし)	37.1%	—	b	目標を概ね達成した。 (5年間平均 84.6%)		
				○建設混合廃棄物(※8)の排出量を平成12年度と比べて、平成22年度までに50%削減する。	(単年度の計画なし)	9.7t	7,000t(H12)	a	目標を達成した。 (99.9%削減)		
				○建設発生土の有効利用率90%以上を維持する。	(単年度の計画なし)	77.8%	—	c	地下水位の高い地域での工事が多かったため、建設発生土の再利用率が目標値に達しなかった。 (5年間平均 76.3%)		
			④環境に配慮した工事の実施	公共工事を行う際には、環境に与える負荷を極力低減させるよう努める。	(以下の4項目のとおり)						
				○ 請負業者から提出される「施工計画書」中の「環境に配慮した工事実施計画」の充実に努めるとともに、記載事項が適切に実施されているかを実際に確認する。	(単年度の計画なし)	環境に配慮した工事実施計画の記載事項について、工事現場及び検査時における確認を適切に実施した割合 100%	—	a	割合を100%として、目標を達成した。		
				○建設機械で排ガス対策車の指定があるものは、原則として全ての公共工事に対策車を使用し、建設機械の排気ガスによる大気汚染の軽減を図る。	(単年度の計画なし)	対象となる工事で、排ガス対策車の使用を現場で確認した割合 100%	—	a	割合を100%として、目標を達成した。		
			⑤庁舎における一般廃棄物量の削減	○ 施工箇所に応じた低騒音・低振動の施工方法を選択するとともに、低騒音型機械のあるものは、原則として全ての工事で当該機械を使用し、建設機械による騒音・振動の軽減を図る。	(単年度の計画なし)	対象となる工事で、低騒音・低振動機械の使用を現場で確認した割合 100%	—	a	割合を100%として、目標を達成した。		
				庁舎における一般廃棄物の発生量を平成12年度と比べて、平成22年度までに5%削減する。	(単年度の計画なし)	116t	—	—	(参考)平成21年度の実績 151t		

※7 鉛給水管引き抜き工法 17ページ参照

※8 建設混合廃棄物 ガラスくず、コンクリート塊、木材など多種類の素材が混ざった廃棄物。分別が困難でリサイクルしにくいいため、工法の改善、現場分別の徹底などにより混合物としての発生量を減らすことが重要です。

水道局独自の取組事項
 千葉県環境マネジメントシステムに基づく取組事項

評価区分
 a…目標を達成した。
 b…目標を概ね達成した。(達成率80%以上。)
 c…目標を達成できなかった。(達成率80%未満。)